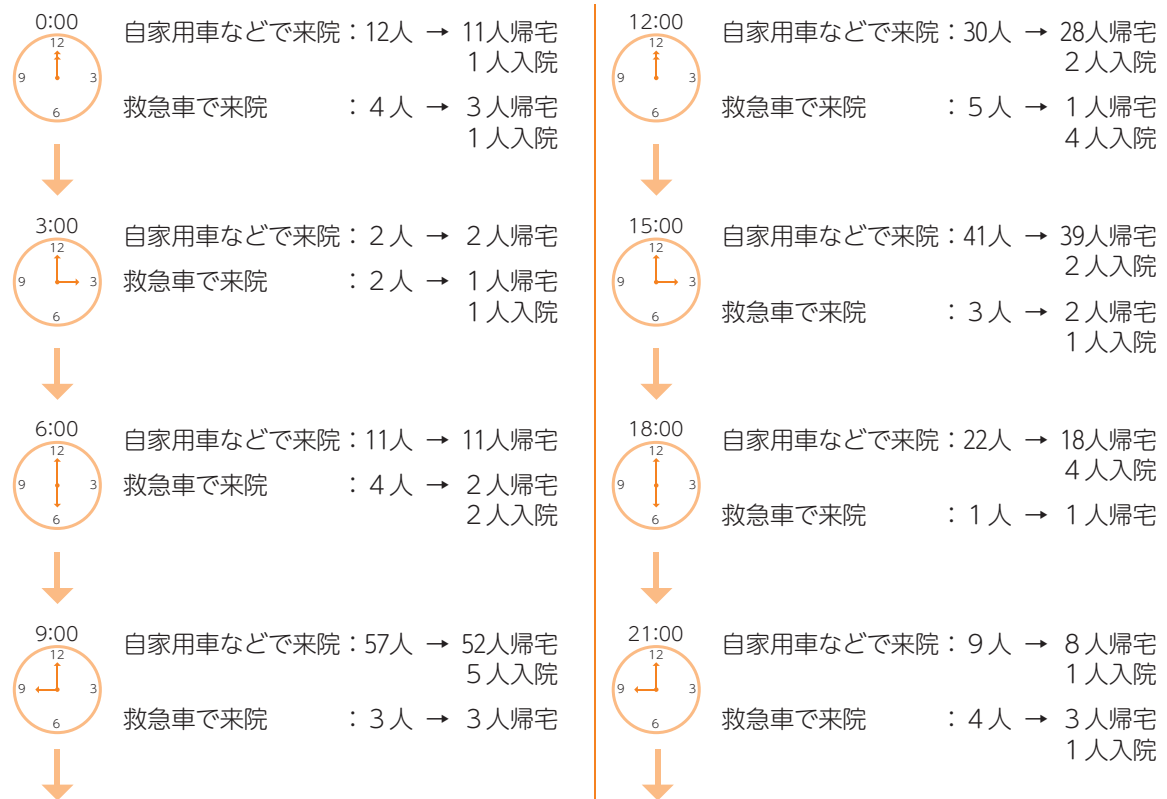


岡崎市民病院の  
救急現場から

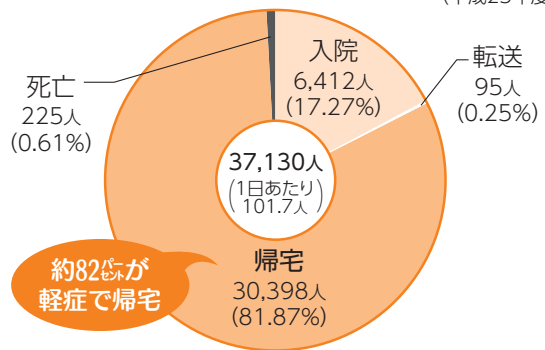
ある救急外来の1日

図1



この日は**210人**(87人)が来院。そのうち、**185人**(80人)が軽症のため帰宅となりました。  
※( )内は15歳未満の子どもの内訳

図2 岡崎市民病院救急外来患者の処置後 (平成23年度)



**ストップ！コンビニ受診**

「コンビニ受診」という言葉を聞いたことがありますか？夜間や休日などに、軽症で緊急性がないにもかかわらず、救急医療機関を利用することを言います。

岡崎市民病院の救急外来には、1日100人を超える人が受診します。そのうち軽症と診断され、診察後に帰宅した人は全体の約8割に及びます(図2)。夜間は約10人の医師で対応していますが、軽症の患者に多くの時間を取られると、一刻を争う重症患者への対応が遅れてしまうかもしれません。昼間は出掛けていたなどの個人の都合による夜間や休日のコンビニ受診は、絶対にやめてください。



特集  
救急医療が  
ピンチ  
です!!

岡崎市域で唯一、生死にかかわる重篤な救急患者を救う役割を担う「岡崎市民病院」。しかし、岡崎市民病院の救急外来受診者の多くが軽症患者です。軽症患者が増えると、本来に迅速な処置を必要とする患者への対応が遅れ、対応に追われる医療スタッフも疲弊してしまいかも知れません。救急医療は正しく利用してください。それが、救急医療体制を守ることになり、皆さんの安心にもつながります。

救急現場はパニック寸前


岡崎市民病院の救急外来を受診する患者数は3万7130人(平成23年度)で、10年前と比べると約20%増加し、高止まりの状況にあります。また、救急車での搬送は年々増加し続けています。

大切な命を守るため、現場の医療スタッフは、必死で対応しています(図1)。医師や看護師などの負担や疲労度は大きく、救急医療の現場は綱渡り状態が続いています。

**救急を受診するその前に**

まずは、かかりつけ医を持ちましょう。かかりつけ医を持つと、気軽に健康上の相談ができ、病歴や体質などを熟知した上で診察を受けられます。そのため、病気の早期発見や新たな病気の予防にもつながります。さらに、精密検査や、専門的な治療などで受診や入院が必要な場合は、適切な病院・診療科を紹介してもらえますので安心です。

次のページでは、特に救急外来の利用機会が多い子どもたちのために、急な病気・けがのとき、相談できる機関や知っておくと便利な情報をお知らせします。




中消防署本署救急2係  
消防士長 壁谷 敏也

**救急車の適正利用にご理解とご協力を!!**

救急車は、いざという緊急時に出動するためのものです。しかし、軽い病気やちょっとしたけがで利用されるケースが多く見られます。緊急性がなく自分で病院に行ける場合は、救急車の利用を控えるよう、皆様のご協力をお願いします。

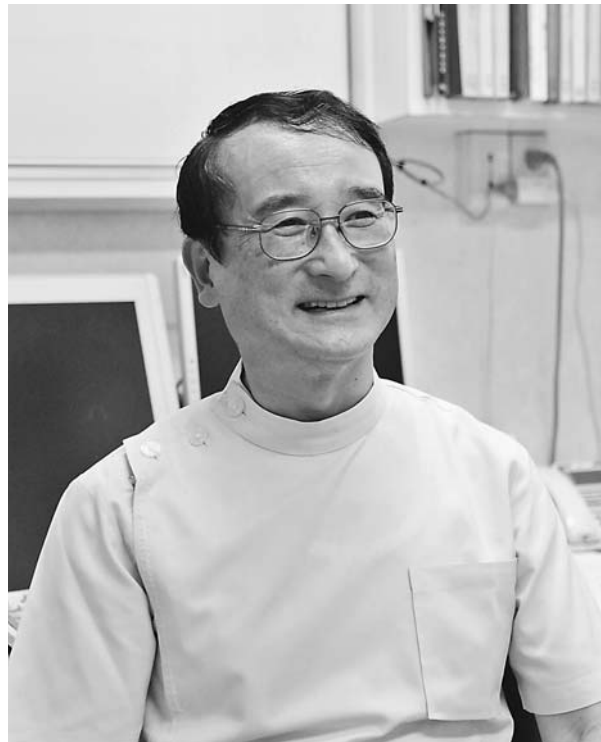
**9月9日は  
救急の日**







子育て中の  
皆さんへ



市小児救急医療対策協議会長 医師 水野 周久 氏

プロフィール  
市内で小児科医院を開業する傍ら、(社)岡崎市医師会副会長を務め、学校保健・予防接種・乳幼児保健・小児救急を担当

「かかりつけ医」を持つことが大切です。

——最近の小児救急の受診傾向を教えてください。

岡崎市医師会夜間急病診療所の小児科を受診した患者さんでは、発熱が最も多く、95%以上は軽症です。

また、市民病院の救急外来や夜間急病診療所を受診したかたの中には、数日前から症状があったにもかかわらず、かかりつけ医を受診しないまま夜間に来院したケースもあります。救急医療は急に症状が出たり悪化した患者さんが対象で、すぐに入院治療が必要

要かどうか判断し、当面必要な応急処置を行うためのものです。

——救急医療を利用すべきか迷う時はどうすれば良いですか？

すぐに救急医療機関を受診すべきか、それとも明日まで様子を見て良いのか、判断するときの参考として「子どもの急病！ガイドブック」があります。例えば急に発熱したときに、どのようなことをチェックして判断したら良いのか簡単に記載しており、看護の仕方も分かりやすく解説しています。

「かかりつけ医」を持つことが大切です。

——子どもの急な病気やけがにどう備えれば良いですか？

お子さんの発育歴、今までにかかった病気、接種済みの予防接種、アレルギー、ひどくなりやすい症状や体質、家族の状況をよく知っている「かかりつけ医」を持つてください。そして「子どもの様子がおかしい」と思ったら、早めにかかりつけ医を受診してください。

また、最近「ワクチンで防ぐことのできる病気」も多くなってきました。特に小さいお子さんがかかる命にかかわる重大な病気もありますので、早めに接種することを勧めます。

小学校に入るまでのお子さんは、急な病気やけがをすることが多いと思います。先ほど紹介したガイドブックにあらかじめ目を通していたら、すぐに対処できるような準備をしていたら、いざというときに慌てず行動できると思います。

## 平成24年度版『子どもの急病！ガイドブック』

このガイドブックは小児科医や保護者が協力して作成し、パパ・ママの役に立つように毎年内容を更新しています。救急医療機関の情報はもちろん、救急車を呼ぶべき症状を分かりやすくまとめたページもあります。もちろん発熱や嘔吐などの病気、けがのときに確認すべき症状のポイントや、自宅でのケア方法など役立つ情報が満載です。

保健総務課(岡崎げんき館2階)、市政情報コーナー(西庁舎1階)、各支所などで配布しています。ぜひ活用してください。

保健総務課 ☎23・6695

かかりつけ医を見つけるのに役立つ「小児科専門医のいる医療機関一覧表」が付いているよ。



## 子どものための救急お役立ち情報

救急医療機関を利用する患者さんを見ると、軽症のお子さんが多く見られます。子どもの症状を正確に判断するのはとても難しいことですが、せめて子どもの急な病気やけがに慌てずに済むよう、日頃から小児救急に関する情報を確認しておきましょう。

## 子どもの急な病気・けがのとき

症状などを相談・確認したい

● 愛知県小児救急電話相談

# 8000

(通話できない場合は ☎052・962・9900へ)  
相談時間：毎日19時～23時

● 救急&予防サイト

こどもの救急 検索  
<http://kodomo-qq.jp/>

受診できる医療機関を探したい

● 愛知県救急医療情報センター ☎21・1133  
365日・24時間対応

知っておくと便利

● 岡崎市医療安全支援センター ☎23・5089  
※市内医療機関の案内など  
8時30分～正午、13時～17時  
(保健所開所日は除く)

● 岡崎薬剤師会 夜間おくすり相談  
☎090・1833・4554  
20時～翌朝6時 365日対応

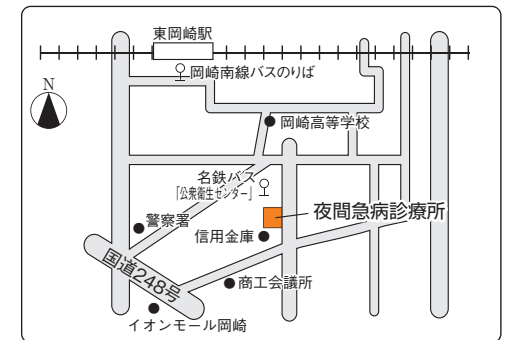
● 岡崎市小児救急医療対策協議会提供の  
小児救急医療情報(ホームページ)

おかざき 小児救急 検索

夜間・休日に受診したい

普段ならかかりつけ医で見てもらう程度の病気やけが

● 岡崎市医師会夜間急病診療所(竜美西1丁目)  
(内科・小児科・外科の医師3人体制)  
☎52・1906 19時30分～22時30分



● 日曜日・祝日の当直医療機関  
(内科または小児科、外科など)  
9時～正午、14時～18時  
※当直医療機関は、市政だよりまたは、愛知県救急医療情報センター(☎21・1133)を確認を。

● 岡崎歯科総合センター(中町) ☎21・8000  
月～土曜日：19時30分～22時30分  
日曜日・祝日：9時～11時30分  
13時～15時30分

症状がかなり重い病気やけが

● 緊急の場合は119番  
● 岡崎市民病院 ☎21・8111

